

令和 7 年度

「運営に関する計画」



大阪市立高津中学校

令和 7 年 5 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成29年度～令和3年度、本校教育の大きな柱として掲げている「生徒の進路保障を重点目標とし、生徒・保護者・地域からの信頼度を高める」の実現に向け、教職員一丸となって教育活動に取り組むことができた。その結果、学力・体力の向上、道徳心・社会性の育成などにおいて一定の成果が見られた。

子どもが安心して生活できるよう学級活動や道徳の時間などを充実させ、教育相談活動を定期的に実施することで、問題行動等を早期に発見し迅速に解決することができている。その結果、校内秩序を保ち、落ち着いた環境で教育活動に取り組むことができた。しかし、平成30年度以降は不登校になる生徒が増加しており、今後も家庭との連携を強化し、生徒一人ひとりの個に応じた支援を行っていくことが喫緊の課題である。また、地域防災に興味・関心が低い生徒が少なくなく、今後も地域と連携して、防災フォーラムへの参加を促進するなどして、地域防災に貢献できる生徒を育てていくことが、地域で育つ子どもたちといった観点からも大きな課題といえる。

学力向上については、国語、数学、英語について習熟度別少人数授業やティーム・ティーチングなど個に応じた指導を充実させるとともに、ICT機器を活用した授業を月平均6割程度実施することで、生徒アンケートにおいて「授業はわかりやすい」と肯定的に回答した生徒の割合の高さにつながった。また、全国学力・学習状況調査および英検IBAテストの結果についても、全国（大阪市）平均を大きく上回り、進路保障に向けたきめ細やかな学習指導の成果が出ている。一方、生徒の学習状況については、生徒アンケートにおいて「授業を受けて、もっと学習しようと思う」と肯定的に回答する生徒が7割程度にとどまり、「学習に関する興味・関心・意欲」に課題があるなど、今後、取り組んでいかなければならない点が明確となっている。また、全国体力・運動能力等調査においては全国平均を下回る種目があり、今後の体力向上に向けた取り組み内容を検討する必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度～令和7年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を毎年90%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和4年度～令和7年度の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 令和7年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の生徒アンケートにおいて「地域の防災について興味関心がある」と回答する生徒の割合を75%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査において、登下校を含め、学校管理下でのけが等の件数を60件以下にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和4年度～令和7年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を毎年80%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府

比を、同一母集団において経年的に比較し、令和3年度より向上させる。 R3 : C

- 令和4年度～令和7年度の大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を70%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を毎年50%以上にする。
- 令和7年度実施の全国学力・学習状況調査生徒質問紙における「学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間勉強しますか」という質問に対して「全くしない」以外を回答する生徒の割合および令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業を受けて、もっと学習しようと思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 令和7年度実施の全国学力・学習状況調査生徒質問紙における「授業の内容はよくわかりますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合および令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走、立ち幅とび、握力の平均の記録を令和3年度よりそれぞれ0.1、5、1ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の推進】

- デジタル教材を活用した授業を週5回以上実施する。
- デジタルドリル等の学習者用端末を活用した学習を、月平均4回以上実施する。
- ゆとりの日を週に1回設定するなど、効率的な会議運営を図る。
- 令和7年度末教職員アンケートにおいて「教育環境を整備している」と回答する教職員の割合を90%以上にする。

【その他】「人を大切にする教育」を推進するため、「チーム高津」として生徒・保護者・地域から信頼される質の高い教職員集団を確立する（本校独自目標）

- 令和7年度末の生徒アンケートにおける「先生方は、生徒一人ひとりを大切にし、積極的にかかわってくれる」「先生方は、自分の相談に乗ってくれる」と回答する生徒の割合をともに85%以上にする。
- 令和7年度末の保護者・生徒アンケートにおいて「学級・生徒会・委員会活動・学校行事など生徒の自主性、主体的を尊重した活動を多く取り入れている」と回答する保護者・生徒の割合を全て90%以上にする。
- 令和7年度実施の全国学力・学習状況調査生徒質問紙における「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合を令和3年度より5%向上させる。
- 令和7年度末の生徒アンケートにおいて「校舎内を美しく」の1～5の項目すべてにおいて3学年とも「はい」と回答する生徒の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

【R 4 ; 82%⇒R 5 ; 80%⇒R 6 ; 82%△】

（内訳 1年生；72%、2年生；83%、3年生；83%）

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

【R 4 ; 11.1%⇒R 5 ; 16.1%⇒R 6 ; 25.7%△】

学校の年度目標

○年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と回答する生徒の割合を過去3年間の平均値以上にする。

【R 4 ; 84%⇒R 5 ; 85%⇒R 6 ; 82%▼】（平均）83.7%

○年度末の校内調査において、登下校を含め、学校管理下でのけが等（要医療）の件数を前年度と同等か、それ以下にする。

【R 4 ; 101件⇒R 5 ; 86件⇒R 6 ; 61件△】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。

【（校内アンケート） R 4 ; 56.8%⇒R 5 ; 48.3%⇒R 6 ; 49.2%△】

（内訳 R 5⇒R 6 1年生；36.3%⇒44.0%、2年生；53.3%⇒58.1%、3年生；53.1%⇒58.1%）

○令和5年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

【（国語3年生） R 3 ; 1.11⇒R 4 ; 1.13⇒R 5 ; 1.13⇒R 6 ; 1.12▼】

【（数学3年生） R 3 ; 1.18⇒R 4 ; 1.11⇒R 5 ; 1.13⇒R 6 ; 1.18△】

○令和5年度の大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学生3年生の割合（4技能）を83%以上にする。

【R 4 ; 82.3%⇒R 5 ; 82.8%⇒R 6 ; 82.4%▼】

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。

【R 4 ; 54%⇒R 5 ; 58%⇒R 6 ; 54%▼】

学校の年度目標

○年度末の生徒アンケートにおける「授業を受けて、もっと学習しようと思う」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。

【（校内アンケート） R 4 ; 80.1%⇒R 5 ; 74.0%⇒R 6 ; 75.5%△】（平均）76.5%

○年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。

【（校内アンケート） R 4 ; 93.5%⇒R 5 ; 88.9%⇒R 6 ; 91.4△】（平均）91.3%

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、男女ともに大阪市平均と同等か、それ以上にする。

【学びを支える教育環境の推進】

全市共通目標

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等でICT活用が適さない日数を除く)

【R 6 ; 35.7%▼】

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を65%以上にする。

【R 6 ; 64.29%△】

学校の年度目標

○年度末教職員アンケートにおいて「教育環境を整備している」と回答する教職員の割合を前年度と同等かそれ以上にする。

【R 6 ; 88%△】

【その他】

「人を大切にする教育」を推進するため、「チーム高津」として生徒・保護者・地域から信頼される質の高い教職員集団を確立する（本校独自目標）

学校の年度目標

○年度末の生徒アンケートにおける「先生方は、生徒一人ひとりを大切にし、積極的にかかわってくれる」「先生方は、自分の相談に乗ってくれる」と回答する生徒の割合をともに過去3年間の平均値以上にする。

【（積極的にかかわる） R 4 ; 91.9%⇒R 5 ; 91.4%⇒R 6 ; 92.7%△】（平均）92.0%

【（相談に乗る） R 4 ; 92.4%⇒R 5 ; 92.3%⇒R 6 ; 93.6%△】（平均）92.8%

○年度末の保護者・生徒アンケートにおいて「学級・生徒会・委員会活動・学校行事など生徒の自主性、主体的を尊重した活動を多く取り入れている」と回答する保護者・生徒の割合を全て過去3年間の平均値以上にする。

【（保護者アンケート） R 4 ; 91.5%⇒R 5 ; 91.7%⇒R 6 ; 92.1%△】（平均）91.8%

【（生徒アンケート） R 4 ; 94.8%⇒R 5 ; 94.6%⇒R 6 ; 93.6%▼】（平均）94.3%

○年度末の生徒アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度と同等かそれ以上にする。【R 6 ; 81%△】

○年度末の生徒アンケートにおいて「校舎内を美しく」の1～5の項目すべてにおいて3学年とも「はい」と回答する生徒の割合を過去3年間の平均値以上にする。

【（生徒アンケート） R 4 ; 96.1%⇒R 5 ; 95.4%⇒R 6 ; 94.7%▼】（平均）95.4%

3 令和6年度の自己評価結果の総括（再掲 令和7年度版は、年度末に記述）

（令和6年度）

中期目標の3年目を終え、中期目標の達成に向けた年度目標21項目の内、達成できた項目は前年度を上回る17項目（81%）であり、目標値を大きく超えている項目も多かった。一方、達成できなかつた項目は4項目（19%）であり、達成できていない項目の課題解消に向けて年度目標や取組内容を再検討するとともに、教職員の指導力向上と環境整備に努めたい。

【安全・安心な教育の推進】について、生徒アンケートで「規則正しい生活を心がけている」と肯定的に回答した生徒が82%（年度目標は80%）おり、校内で継続して取り組んでいる項目では成果が見られた。

いじめの防止・対応に関しては、毎月実施している「学校生活アンケート」や校内の見守りを強化することによって、いじめにつながる事案を早期発見し解決することができた。生徒アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」と最も肯定的に回答した生徒が82%（年度目標は90%）おり、目標を達成することはできなかつた。しかし、上記の質問に肯定的な回答をした生徒は97%おり、昨年より上昇していることは成果である。

不登校の対応に関しては、各学期の初めに行う「教育相談（カウンセリング）」や、学習者用端末を使用した「心の天気」「教職員への相談機能」を導入することにより、生徒の日々の様子を的確に捉えて教職員間で共有するようにした。しかし、不登校生徒の比率を前年度より減少させることはできず、直近の5年間は増加傾向が見られる。このような中、こども相談センター、大阪市子どもサポートネット等の関係諸機関との連携を密に行うこと、不登校傾向にある生徒が教育支援センター（適応指導教室）やフリースクールに通うことができた。その結果、前年度不登校生徒の改善の割合を、昨年より9ポイント上昇できたことは成果である（令和5年度は16.1%、令和6年度は25.7%）。今後も家庭との連携を強化し、生徒一人ひとりに応じた丁寧な対応に努めたい。次年度は不登校生徒の居場所と学習機会を確保するために、校内に適応指導教室（仮称：ほっとスペース）を開設する予定である。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】の学力面では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と最も肯定的に回答した生徒が前年度より増加し、49%であった。これは、各教科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、グループ学習やペア学習を行った成果が学校全体で表れている。また、「授業の内容はよくわかる」と肯定的に回答した生徒は平成29年度からすべての年度で85%以上あり、今年度も91%と高い値であった。

これらの成果は学力調査等にもあらわれており、中学生チャレンジテストでは5教科すべてが大阪府平均を上回っており、平均点の対府比は国語で1.12、数学で1.18であった。また、全国学力・学習状況調査も国語、数学ともにすべての観点で全国の平均正答率を上回り、無解答率についても全国平均を大きく下回っていた。さらに、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）は82%（年度目標は75%）であった。これは、国語・数学・英語において習熟度別少人数授業やティーム・ティーチングなどの個に応じた指導を充実させ、つまずきの部分を解消することで学習に対する不安を取り除けたことに加え、全教員を対象に相互参観・研究協議を通して、授業内容の研究や工夫した教材の作成をした成果と考える。

体力面では、生徒アンケートにおいて「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好き」と最も肯定的に回答した生徒が54%と年度目標50%を達成している。一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における握力や上体起こし、立ち幅跳びのスコアは全国平均を下

回っており、筋力をつけるとともに柔軟性を高めることに課題があることがわかつた。

今後も中学生チャレンジテストや大阪市英語力調査（GTEC）、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を分析し、生徒の学習達成度や体力・運動能力の状況を把握したうえで、基礎学力の定着・運動能力の向上を図るよう授業の改善に努めたい。

【学びを支える教育環境の推進】については、各教室に高輝度プロジェクターやケーブル等のICT環境を整備することで、ICT機器の活用率も月平均活用率が8割近くまで大きく向上している。また、授業では各教科の特質に合わせて動画・コンテンツなどのデジタル教材を効果的に活用することで、わかりやすい授業につながった。しかし、教科によって活用状況に差が見られるため、どの教科でも効果的に活用できるよう授業改善および教室環境の整備を進めるとともに、学習者用端末を活用してデジタルドリル等を行い、「個別最適化された学び」を実現できるよう工夫したい。

教職員の長時間勤務の解消については、「欠席・遅刻等連絡アプリ（ミマモルメ）」や「採点支援システム」を導入することにより、教員の業務を効率化することができた。とりわけ、「採点支援システム」を活用することで、教員の採点時間を大幅に短縮できるとともに、各設問の正答率を分析して授業改善に役立てができている。

本校独自の目標である【『人を大切にする教育』を推進するため、『チーム高津』として生徒・保護者・地域から信頼される質の高い教職員集団を確立する】については、これまでに取組内容に関する指標を十分に検討し、教職員が情報を共有しながら教職員・各分掌・各委員会・各学年など様々な場面で学校全体として教育活動に取り組んできた。その取組が、落ち着いた教育環境につながっていると考える。生徒と向き合う時間の確保については、生徒アンケートにおいて「先生方は、生徒一人ひとりを大切にし、積極的にかかわってくれる」と回答した生徒が93%、「先生方は自分の相談に乗ってくれる」と回答した生徒が94%となり、85%の中期目標を上回ることができた。今後も教育相談を定期的に実施し、生徒との信頼関係を深めるとともに、問題行動等を早期に発見し、迅速に解決できるよう取り組んでいきたい。

健康・環境整備面では、保健・美化委員会の日々の活動を通して、自分自身の健康面に関する意識やごみの分別・清掃活動等美化に対する意識が非常に高い。生徒アンケートからは、「清掃時、積極的に活動した」「落書きをしたことがない」「ゴミはきちんとゴミ箱に捨てている」と回答した生徒が目標の80%を上回ったが、「スリッパで廊下に出ない」「教室にごみが落ちていたらひろう」の項目は、目標に達しなかった。

次年度、これまでの課題解消および成果の表れた項目のさらなる向上をめざし、教職員の指導力向上と教育環境の整備に努めていく。

大阪市立高津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。 【R 4 ; 82%⇒R 5 ; 80%⇒R 6 ; 82%△】 (内訳 R 5 ⇒ R 6 1年生 ; 72%⇒77%、2年生 ; 83%⇒80%、3年生 ; 83%⇒88%)</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 【R 4 ; 11. 1%⇒R 5 ; 16. 1%⇒R 6 ; 25. 7%△】</p>	
<p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と回答する生徒の割合を過去3年間の平均値以上にする。 【R 4 ; 84%⇒R 5 ; 85%⇒R 6 ; 82%▼】 (平均) 83. 7%</p> <p>○年度末の校内調査において、登下校を含め、学校管理下でのけが等（要医療）の件数を前年度と同等か、それ以下にする。 【R 4 ; 101 件⇒R 5 ; 86 件⇒R 6 ; 61 件△】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・事務部 — いじめ、不登校、児童虐待等への対応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談活動を充実させる。 ・体罰防止を徹底する。 ・いじめ等を早期発見し、迅速に課題解決を行う。 ・心の天気や一人一台端末の相談機能を活用し、生徒の日々の様子を観察する。 ・生徒の学びの環境整備を行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期に 1 回以上カウンセリングや日常の教育相談活動から、生徒を理解する。 (生活指導部) ・いじめの早期発見に努め学年と生活指導部が連携し、課題解決する体制を構築する。 (生活指導部) ・被害調査やいじめアンケート、月 1 回の学校生活アンケート、また、毎日の心の天気を実施し、いじめ等の早期発見や生徒の日々の様子を観察する。(生活指導部) ・生徒理解を深めるため毎月の生徒情報交換を実施する。(生活指導部) ・令和 7 年度開設のほっとスペースについて、管理職をはじめ教職員との連携や共同学校事務室を活用した情報収集、校内への情報提供などを行い、生徒の個別の学びの環境整備を行う。 (事務部) 	
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部 — 問題行動への対応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秩序の保たれた授業の維持と基本的生活習慣を徹底する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日登下校指導を徹底し、基本的生活習慣の維持向上を図る。 ・毎朝のあいさつ運動や月 1 回の新聞発行など、生徒会活動を活発に行い、自律した行動の定着を促す。 ・月 1 回程度の風紀点検を実施し、相互確認によって規範意識を高める。 ・授業の始まりと終わりのあいさつを徹底する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・管理作業部 — 安全教育の推進 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内及び登下校の安全を確保し、あらゆる事故を未然防止する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安全と快適に学校で過ごせる教育環境の充実に向けて、月 1 回の施設設備の安全点検を行う。事前に補修、修繕を実施し、必要に応じて各部所と連携を図り改善を行う。(管理作業部) ・熱中症対策講習を 1 学期に実施し、安全に配慮する。(生活指導部) ・全校集会や学年集会等で、安全安心に過ごせるように、共通理解を図る。 (生活指導部) ・体育や部活動について、年間計画や練習計画を立て、適切な指導をする。 (生活指導部) 	

<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>— キャリア教育の充実 —</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業講話、職場体験、高等学校説明会、進路説明会を実施し、これから社会を生きるために幅広い視点を身につけさせる。 	<p>教務部（進路）</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で系統的に進路学習に取り組む。1・2年ではキャリア教育として、職業講話、職業学習を実施することで、社会的、職業的に自立する力を養う。また、3学期に卒業後の進路に向けて各学年全体で進路学習することにより自らの進路を選択できる力を養う。 3年では公立高校から講師を招き、生徒向けに高校説明会を実施する。また、学期ごとの進路学習に取り組むことで、卒業後の自らの進路を選択できる力を養う。 保護者対象に校内で、高等学校説明会を2回、進路説明会を2回実施し情報提供を行う。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】道徳委員会・人権教育委員会</p> <p>— 道徳教育・人権を尊重する教育の推進 —</p> <ul style="list-style-type: none"> 思いやりの心、協力し合う態度を育成する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 思いやりの心を持ち、協力し合う態度を育成し、人権教育の知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面から子どもたちの人権感覚を養うため、外部人材を用いた取り組みを年間3回以上行う。 人権尊重の精神を育むため、3年間を通して積み重ねができるよう計画を立て実践する。 道徳的価値に基づき、資料を読み深めた授業になるよう、読み物資料の研究を継続する。 学年で資料の読み合わせ等を行い、理解を深める。 すべての学年において、学期末まとめプリントの項目の「授業の中で自分の考えを発表する」ことができた生徒が80%以上になることを目標とする。 	
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】特別支援委員会</p> <p>— インクルーシブ教育の推進 —</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級・通級指導教室の取り組みをコーディネートし、円滑に運営する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、特別支援教育推進委員会を行い、共通認識を持って、学習・生活指導を行う。 障がいに応じた対応を、共通認識する。 教育活動支援員との情報交換を密に行い、生徒の実態を的確に把握する。 連絡帳を用いて、家庭との連絡をとり、保護者との情報交換を密に行う。 個別の教育支援計画をつくり、計画に沿って生徒の発達に応じたカリキュラムを組み、個々に適した通級指導を行う。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立高津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標 ○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。 【(校内アンケート) R 4 ; 56.8%⇒R 5 ; 48.3%⇒R 6 ; 49.2%△】 (内訳R 5⇒R 6 1年生；36.3%⇒44.0%、2年生；53.3%⇒58.1%、3年生；53.1%⇒58.1%) ○令和5年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 【(国語3年生) R 3 ; 1.11⇒R 4 ; 1.13⇒R 5 ; 1.13⇒R 6 ; 1.12▼】 【(数学3年生) R 3 ; 1.18⇒R 4 ; 1.11⇒R 5 ; 1.13⇒R 6 ; 1.18△】 ○令和5年度の大坂市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を83%以上にする。 【R 4 ; 82.3%⇒R 5 ; 82.8%⇒R 6 ; 82.4%】 ○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。【R 4 ; 54%⇒R 5 ; 58%⇒R 6 ; 54%▼】	
学校の年度目標 ○年度末の生徒アンケートにおける「授業を受けて、もっと学習しようと思う」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。 【(校内アンケート) R 4 ; 80.1%⇒R 5 ; 74.0%⇒R 6 ; 75.5%△】 (平均) 76.5% ○年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。 【(校内アンケート) R 4 ; 93.5%⇒R 5 ; 88.9%⇒R 6 ; 91.4△】 (平均) 91.3% ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、男女ともに大坂市平均と同等か、それ以上にする。 【(大坂市平均) R 6 ; 44.31%⇒(本校) R 6 ; 43.4%▼】	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】教務部 — 思考力・判断力・表現力等の育成 — ・授業内容を充実（わかる授業）させ、生徒に授業の重要さを啓発する。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・国語、数学、英語において、年間を通じて計画的に習熟度授業を実施する。 ・全教員対象に、年に1度、相互参観を行い、授業力の向上をめざす。 ・C-NETを利用した授業を前期に1年、中期に2年、後期に3年を対象に週に1回全クラスで実践し、英語力のアップを図る。 ・各教科において、ICT機器を使った教材など、生徒が興味関心を抱くような授業内容や教材作りをめざす。 	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 教務部・総合的読解力委員会 — 「主体的・対話的で深い学び」の推進 — ・学力補充の在り方を点検し、新たな取り組みを進める。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中に、学年ごとに、国語、数学、英語は5時間以上、その他の教科においても、生徒の状況に応じて補充授業を行う。（教務部） ・校内アンケートにおける「校内研修は充実していたかと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を7割以上にする。（教務部） ・情報を正しく読み取り、考えを形成し表現する総合的読解力を育成していくために言語活動が充実した授業を行う。（総合的読解力委員会） 	
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 事務部 — 言語活動・理数教育の充実 — ・予算の有効活用を行う。 ・教職員の環境整備を行う。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・各予算が事業目的に沿って有効活用できるよう、共同学校事務室等を通じて情報提供・共有を行い、学校経営に必要な人材育成を行うとともに、そこで得た知識等を活かし、生徒が家庭学習・補充学習において、より学習意欲が上昇する教材を教職員が作成できるよう、教職員と連携を図り、事務負担軽減や予算の有効活用等を行う。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立高津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の推進】 <u>全市共通目標</u> ○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等でICT活用が適さない日数を除く）【R 6 ; 35.7%▼】 ○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を65%以上にする。 【R 6 ; 64.29%△】	
<u>学校の年度目標</u> ○年度末教職員アンケートにおいて「教育環境を整備している」と回答する教職員の割合を前年度と同等かそれ以上にする。 【R 6 ; 88%△】	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 — ICTを活用した教育の推進 — 情報教育委員会・事務部	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・心の天気を実施することで自己の気持ちを客観的にみる力を育むとともに生徒とのコミュニケーションをとり、生徒の心の状況を把握する。（情報教育委員会） ・毎日1回は学習者用端末を用いた授業や心の天気などを実施する。 (情報教育委員会) ・年3回（学期に1回）、教員の相互参観等を活用し、実際にICT機器を使用した授業・状況等を確認し、教材等の使われ方などを把握、今後の予算執行等の参考資料とする。（事務部） 	
取組内容②【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 教務部・生活指導部・健康教育部 — 教育コミュニティづくりの推進 —	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターと連携を図り、基本的には週3回程度の学力補充を行う。 (教務部) ・「子どもの生活を考える会」「祭礼巡視」や「バンビ」（子育てサークル）を通して学校・家庭・地域と連携を図る。 (生活指導部) ・年1回のふれあい清掃を地域の人とともに実施する。（健康教育部） ・地域連携を視野に入れ、地域とともに防災教育の充実を進める。（健康教育部） ・年2回の避難訓練（地震、火災を想定）を行い、防災についての意識を高めさせる。 (健康教育部) 	
取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 事務部 — 働き方改革の推進 —	
<ul style="list-style-type: none"> ・チーム学校の一員として、学校内だけでなく教育委員会などとも連携を図り、校舎保全・生徒の学びの環境整備を行う。 ・保護者への情報提供として「事務だより」の作成を年9回発行し、HPや学校から配布させるお知らせだけでは知りえない事務室からの学びの環境整備について掲載を行う。また、ミマモルメを活用したデータ配信を中心とし、予算削減等を行う。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立高津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【その他】 「人を大切にする教育」を推進するため、「チーム高津」として生徒・保護者・地域から信頼される質の高い教職員集団を確立する（本校独自目標）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「先生方は、生徒一人ひとりを大切にし、積極的にかかわってくれる」「先生方は、自分の相談に乗ってくれる」と回答する生徒の割合をともに過去3年間の平均値以上にする。 【（積極的にかかわる） R 4 ; 91.9% ⇒ R 5 ; 91.4% ⇒ R 6 ; 92.7% △】（平均） 92.0%</p> <p>【（相談に乗る） R 4 ; 92.4% ⇒ R 5 ; 92.3% ⇒ R 6 ; 93.6% △】（平均） 92.8%</p> <p>○年度末の保護者・生徒アンケートにおいて「学級・生徒会・委員会活動・学校行事など生徒の自主性、主体的を尊重した活動を多く取り入れている」と回答する保護者・生徒の割合を全て過去3年間の平均値以上にする。 【（保護者アンケート） R 4 ; 91.5% ⇒ R 5 ; 91.7% ⇒ R 6 ; 92.1% △】（平均） 91.8%</p> <p>【（生徒アンケート） R 4 ; 94.8% ⇒ R 5 ; 94.6% ⇒ R 6 ; 93.6% ▼】（平均） 94.3%</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度と同等かそれ以上にする。【R 6 ; 81% △】</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおいて「校舎内を美しく」の1～5の項目すべてにおいて3学年とも「はい」と回答する生徒の割合を過去3年間の平均値以上にする。 【（生徒アンケート） R 4 ; 96.1% ⇒ R 5 ; 95.4% ⇒ R 6 ; 94.7% ▼】（平均） 95.4%</p>	

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗 状況</p>
<p>取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 生活指導部 — キャリア教育の充実 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に考え方判断できる力を育成する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、生徒会活動や生徒評議会を活発に行い、生徒に主体的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・生徒が学校行事や委員会活動を自主的に運営することで、自主自立の精神を高める。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 健康教育部 — 健康教育の推進 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣を身に着け、心身ともに健康な学校生活を送ることができる環境を整える。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年9回以上の大清掃を行う。 ・学期に1回の破損調査を行い、直せる箇所はできる限り迅速に補修する。また、清掃区域を細かく分担し、教師監督のもと、日々の美化活動が活発になるように努める。 ・毎月の美化委員会で、美化強化箇所(場所)を決め、重点的に清掃を行う。 ・手洗い・うがいを励行し、感染症の予防に努めさせる。 ・基本的な生活の習慣や生活リズムの形成に努めさせる。 ・保健委員会の活動を活性化し、文化祭の発表などを通じて、健康意識の向上に努める。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	